

独立行政法人教員研修センター委嘱事業

平成 23 年度教員研修モデルカリキュラム開発プログラム

報 告 書

プログラム名	小1プロブレム解消のためのOJTを推進する リーダー養成研修プログラム開発
プログラムの特徴	<p>新学習指導要領の全面実施に向けた今日的な教育課題の一つとして、いわゆる小1プロブレムが挙げられており、幼児教育の領域と小学校教育をつなぐ新しい教育課程づくりが、各学校園に求められている。この小1プロブレムの解消を目指した教育課程づくりに資する教員の力量形成とともに学校組織としての課題解決力の向上をめざした研修カリキュラムを開発する。この研修カリキュラムには参加者が自校の職員全体にその成果とノウハウをスムーズに伝播し、組織機能を高めるための対人関係およびコミュニケーションスキル向上のトレーニングが含まれる。</p> <p>小1プロブレム解消のための幼稚園(保育所を含む)と小学校とをつなぐ新しい教育課程づくりと学校園での教育実践研究の方法にかかわる内容領域から構成される研修テキストを共同開発し、そのテキスト内容を基本にして大学及び教育委員会の教員研修カリキュラムの一つとして、実際にトレーニング・プログラムを用いた研修を開設・実施する。併せて、有効性という観点から研修内容・方法等を評価・改善する。</p> <p>理論と実践が密接に結びついた効果的な教員研修カリキュラムの構築により、各組織におけるリーダーとしての個々の教員の力量を高める。さらに、そのリーダーによってこの汎用性の高い教員研修モデルカリキュラムが学校園に定着することで校(園)内研修(OJT=On the Job Training)が充実し、小1プロブレムなどの教育課題が解決することが期待される。</p>

平成 24 年 3 月

機関名 国立大学法人 熊本大学
連携先 熊本県教育委員会

プログラムの全体概要

熊本大学主催教員自主研修カリキュラムのモデル試案を、別紙 1-1 から別紙 1-4 に示す。

I 開発の目的・方法・組織

1. 背景・趣旨・目的

新学習指導要領の全面実施を控えて、小1プロブレム及び中1ギャップが今日的な教育課題の一つとして挙げられている。小中一貫校の設置に見られるような小中連携とともに、小学校低学年の学力形成に大きな影響が考えられる幼児教育の領域と小学校教育をつなぐ新しい教育課程づくりが、各小学校、幼稚園に求められている。この小1プロブレムの解消を目指した教育課程づくりに資する教員の力量形成とともに学校組織としての課題解決力の向上をめざした研修カリキュラムを開発する。また、教職員の多忙感が課題となっている現在、必要な研修を効果的に行うためのOJT (= On the Job Training) 研修の推進を目指して、参加者が自校の職員全体にその成果とノウハウをスムーズに伝播し、組織機能を高めるための対人関係およびコミュニケーションスキル向上のトレーニングをこの研修カリキュラムの手段として含んでいる。

2. 研修カリキュラムの内容等

(1) 研修対象

熊本県菊池教育事務所管内の小学校教諭 30 名程度。

(2) 研修日程

研修の全体計画は、別紙 2-1 のとおり。

(3) 研修カリキュラムの評価・改善

教員研修カリキュラムの一つとして、「小1プロブレム解消を目指した教育課程づくり」に関わる内容研修を計画・実施する際に、受講者を対象とした事後アンケートで実際の講習の有効性ならびに実行可能性を調査することで、講習内容・方法等を評価・改善する。また、「対人関係およびコミュニケーションスキル向上」に関わるスキル研修については、参加者の自己評価による行動評価を導入、活用する。

3. 開発体制

(1) 前（平成 22）年度までの連携状況

本事業への申請にあたって、前（平成 22）年度まで、熊本県教育庁との連携により、研修カリキュラムを共同で開発してきた経緯はなかった。「幼児教育と小学校教育をつなぐ新しい教育課程づくり」に関わる研修については、平成 23 年度に、熊本大学教員免許状更新講習において、新規に実施し、そのテキストおよび講習内容・方法等の計画は既に出て上がっているが、今後、新たな視点の導入を含めて改訂・増補する必要がある。また、修得したことを伝播していくためには、「対人関係やコミュニケーションスキル」に関わる研修がベースになることは研究的にも実践的にも重

要なことが認められている。しかしながら、その向上のためのノウハウについては必ずしも十分な研修カリキュラムが開発されてはいない。今回の試みは、こうした課題解決にも十分答えることが期待される。

(2) 開発体制

No.	所属	氏名・職名	担当・役割
1	熊本大学教育学部	高原朗子・教授 河野順子・教授 藤田 豊・教授 中山玄三・准教授 田中耕治・特任教授	「小 1 プロブレム解消を目指した教育課程づくり」のための内容研修カリキュラムの開発と実践
		吉田道雄・教授 田中耕治・特任教授	「対人関係、コミュニケーションスキル向上」のためのスキル研修カリキュラムの開発と実践
2	熊本県立教育センター	石井祐治・副所長 中野洋一・室長 白川悦子・室長 根本まり子・指導主事	熊本大学教員自主研修講座の計画・実施・評価・改善にかかわる助言、研修講座の担当、研修の運営協力

なお、研修を実施するに当たり、熊本県教育庁教育政策課、熊本県菊池教育事務所、菊池市教育委員会、合志市教育委員会、大津町教育委員会、菊陽町教育委員会、菊池市立七城小学校、合志市立合志小学校、合志中部保育園、大津町立大津南小学校、大津町立陣内幼稚園に、ご支援・ご協力を依頼する。

(3) 連携先との協議会・打合せ等の実施状況

別紙 3 のとおり。

(4) 開発後の連携協力

期待される開発成果としては、大学と教育センターが共同で研修カリキュラムを開発・実施・評価・改善することで、理論と実践が密接に結びついた効果的な教員研修モデルを構築することが可能となる。さらに、それが汎用性の高いカリキュラムのモデルとして活用することが期待される。また、このような研修カリキュラムによって個々の教員の力量を高めるとともに、本研修に参加していない教員全体のスキル向上を期待することも可能になる。

開発後の平成 24 年度以降は、汎用性の高いモデルカリキュラムとして、幅広く活用できることが期待される。例えば、集団合同研修としては、熊本大学での教員免許状更新講習で大学教員と教育センター指導主事が共同で研修を実施すること、熊本県立教育センターでの教員研修講座で教育センター指導主事と大学教員が共同で研修を実施することなどが挙げられる。また、各学校園別個別研修としては、熊本大学が設定するパイロット地区・学校園での校（園）内研修で、大学教員と指導主事が共同で研修を実施することなどが挙げられる。さらに、対人関係およびコミュニケーションスキル向上の研修プログラムを現在の教員研修スケジュールの中に導入することも可能になるであろう。

Ⅱ 開発の実際とその成果

1. 「小1プロブレム解消を目指した教育課程づくり」に関わる内容研修講座

(1) 研修のねらいとテーマ

平成23年度熊本大学主催教員自主研修講座の一つとして開設した「小1プロブレム解消を目指した教育課程づくり」にかかわる内容研修のねらいは、次のとおりであった。

- ① 小1プロブレムの解消に取り組む教員の自主研修の機会とする。
- ② 特に、小1プロブレムの解消に向けた幼保小連携やスタートカリキュラムづくりにかかわる内容について、理論と実践の両面から、理解を深めるとともに、各学校での取り組みや校内研修等(OJT = On the Job Training)に研修成果を生かしていこうとする意識啓発の機会とする。

全4回シリーズの内容研修のテーマは、次のとおりであった。

内容研修1： 理論研修 「教育課題の把握」

内容研修2： 理論研修 「幼児教育と小学校低学年をつなぐスタートカリキュラム」

内容研修3： 合志市での実践研修 「幼保小連携の実際」

内容研修4： 菊池市での実践研修 「新年度に向けた小1プロブレム解消の方策」

内容研修の実施要項を別紙2-2に、参加学校一覧を別紙4-1に、参加者を対象とした事後アンケート用紙とその集計結果を別紙5-1に、それぞれ示す。なお、別紙6に示した作成教材等については、別途、独立行政法人教員研修センター宛に郵送することにする。

(2) 理論研修の概要

理論研修を中心とした内容研修1および内容研修2を、平成23年7月28日(木)に菊池市七城公民館で実施した。菊池教育事務所管内の小学校17校(52%)から各1名の教員、および菊池市立七城小学校長と大津町立陣内幼稚園長の2名が参加した。なお、参加した教員のうち、1年生担任が12名、2年生担任が2名で、幼保小連携担当が5名であった。

内容研修1では、「小1プロブレムの現状と課題を把握するとともに、小1プロブレム解消のための教育課題について理解を深めること」を主なねらいとした。熊本大学教育学部教授の高原朗子氏が「小1プロブレムとは-子育て支援の立場から-」、熊本大学教育学部教授の藤田豊氏が「小1プロブレム解消のための教育課題-幼児教育の立場から-」というテーマでそれぞれ研修を担当した。

内容研修2では、熊本県の幼保小連携カリキュラムについて理解を深めるとともに、幼児教育と小学校低学年をつなぐ新しいスタートカリキュラムづくりに向けた教育実践上の具体的な課題を自覚することを、主なねらいとした。熊本県立教育センター指導主事の根本まり子氏が「熊本県の幼保小中連携カリキュラムについて」、熊本大学教育学部准教授の中山玄三氏が「スタートカリキュラムづくりに向けた教育実践上の課題」というテーマでそれぞれ研修を分担した。

理論研修のまとめにかえて、熊本大学教育学部准教授の中山玄三氏が、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議報告(2010)を中心に要点を整理し、理論研修を終了した。

参加者を対象とした事後アンケートでは、17名(94%)の参加者から、全体として今回の研修が有意義だったという回答を得た。

(3) 合志市での実践研修の概要

大学と教育委員会・学校園との協働による実践研修を中心とした内容研修3を、平成23年10月

27日(木)に合志市西合志庁舎で実施した。菊池教育事務所管内の小学校13校(39%)から計15名の教員(合志小学校長と七城小学校長を含む)、および合志中部保育園から計4名が参加した。また、熊本県立教育センター副所長の石井祐治氏が来賓として参加した。

内容研修3では、「幼保小連携の実践校園での取り組みの実際を事例として、「ことばの力」の育成に焦点を当てた実践上の工夫や課題について協議することで、相互に学び合うこと、また、協議のまとめでは、子どもの発達と学びの連続性の保障という点から、専門的な知見を学ぶこと」を主なねらいとした。

プログラム(1)では、菊池教育事務所指導主事の緒方紀江氏がオーガナイザーとなり、幼保小連携の実践校園からの報告が行われた。ゲストスピーカーとして、合志市立合志小学校長の森智保美氏と中林富士子氏、ならびに合志中部保育園副園長の福嶋義信氏が「ことばの力を育成する保育・教育の工夫」についての実践報告を行った。引き続き、アドバイザーとして、熊本県立教育センター室長の白川悦子氏より、「幼保小連携を推進することによる教育効果」についてのご助言をいただいた。

プログラム(2)では、熊本大学教育学部教授の藤田豊氏と河野順子氏がコーディネーターとなり、幼保小連携の実践上の工夫や課題についての協議が行われた。まず、福嶋氏(合志中部保育園副園長)による保育園での実践報告を事例として、研修参加者からの質疑・意見等を取り上げながら、「幼保小連携の実践上の工夫や課題」について研修参加者が協議し相互に学び合う機会を提供した。また、藤田先生ご自身の合志中部保育園との協働的なかかわりの経験をもとに、アドバイザーとしてご助言をいただいた。引き続き、森氏と中林氏(合志市立合志小学校)による小学校での実践報告を事例として、研修参加者からの質疑・意見等を取り上げながら、「幼保小連携の実践上の工夫や課題」について研修参加者が協議し相互に学び合う機会を提供した。また、河野氏ご自身の合志小学校との協働的なかかわりの経験をもとに、アドバイザーとしてご助言をいただいた。

プログラム(3)の実践研修のまとめにかえて、まず、藤田氏(熊本大学教育学部教授)より「子どもの発達の連続性を保障すること」について、専門的な知見をご提供いただいた。引き続き、河野氏(熊本大学教育学部教授)より、「子どもの学びの連続性を保障すること」について、接続期における「コミュニケーション力の育成」に焦点を当てた専門的な知見をご提供いただいた。

参加者を対象とした事後アンケートでは、17名(100%)の回答者から、「全体として今回の研修が有意義だった」という回答を得た。特に、今回の研修では、「学校に帰ってからの自分の教育実践に生かせる内容があった」という回答が、同じく17名(100%)の回答者から得られた。

(4) 菊池市での実践研修の概要

大学と教育委員会・学校園との協働による現場主導型の実践研修を中心とした内容研修4を、平成24年2月16日(木)に菊池市七城公民館で実施した。菊池教育事務所管内の小学校15校(45%)から計18名の教員(七城小学校長を含む)、および大津幼稚園、双羽幼稚園、加茂川保育園、清泉保育園から計6名が参加した。また、七城地区の主任児童委員や保護者の方々2名も参加した。

内容研修4では、「菊池市と大津町での幼保小連携の取り組みの現状報告をもとに、新年度に向けた小1プロブレム解消の方策について協議することで、相互に学び合うこと」を主なねらいとした。その際、幼保小連携テーマごとに課題と方策を大別して、ステップ・バイ・ステップの具体的な必要・配慮事項を書き出し可視化していくことで、各学校での取り組みに研修成果を生かしていくとする意識啓発の機会を提供した。

プログラム(1)では、熊本大学教育学部特任教授の田中耕治氏がオーガナイザーとなり、幼保小連

携の取り組みの現状報告が行われた。ゲストスピーカーとして、大津南小学校教諭の伊藤太子氏と大津町立陣内幼稚園長の今村美子氏が、「並置校園における幼小連携の取り組み」についての現状報告を行った。その際、基本的な生活習慣を中心とした大津町共通の育ちのステップならびに大津町各地区の幼保小中連携カリキュラムシートについても具体的な資料をご提供いただいた。次に、菊池市立七城小学校教務主任の米村芳郎氏が、「七城地区における幼保小中連携の取り組み」についての現状報告を行った。その際、七城地区のみならず菊池市各地区の幼保小中連携カリキュラム集についても具体的な資料をご提供いただいた。引き続き、アドバイザーとして、菊池教育事務所指導主事の緒方紀江氏より、「菊池郡市における幼保小連携のこれから取り組むべき課題」についてのご助言をいただいた。その際、菊池管内の各地区における幼保小中連携テーマ、ならびにスタートカリキュラムづくりの進捗状況、菊池管内の子どもの基本的な生活習慣等に関する育ちの状況調査データについても具体的な資料をご提供いただいた。

プログラム(2)では、熊本県立教育センター指導主事の根本まり子氏と熊本大学教育学部准教授の中山玄三氏がコーディネーターとなり、新年度に向けた小1プロブレム解消の方策についての協議を行った。菊池管内の中学校区を単位とした幼保小中連携協議会の連携テーマをもとに、「生活上の自立」「精神的な自立」「学びの自立」の3つのテーマに大別した少人数グループ(4~5名程度・5グループ程度)を構成し、新年度に向けた短期的な見通しを持った方策について、研修参加者が協議し相互に学び合う機会を提供した。グループ協議のために、中山氏からは、幼小接続カリキュラムづくりに向けた課題について、平成23年度教員免許状更新講習のデータをもとにした参考資料をご提供いただいた。また、根本氏からは、子どもの基本的な生活習慣等に関する育ちの状況について、熊本県教育委員会による平成23年の調査データをもとにした参考資料をご提供いただいた。グループ協議の結果を踏まえて、幼保小連携の共通テーマごとに課題と方策を大別して、ステップ・バイ・ステップの具体的な必要・配慮事項を列挙することで可視化を試みた。

プログラム(3)の実践研修のまとめでは、ゲストスピーカーとして、菊池市立七城小学校長の亀井裕子氏が、「小1プロブレム解消のために求められる教員資質」について、これまでのご自身の実践・研究・指導等の経験と実績をもとにコメントとまとめを行った。

最後に、熊本大学教育学部准教授の中山玄三氏が、「小1プロブレム解消を目指した教育課程づくり」に関わる内容研修全4回のまとめと総括を行い、研修を閉講した。

参加者を対象とした事後アンケートでは、18名(94.7%)の回答者から、「全体として今回の研修が有意義だった」という回答を得た。

(5) 研修内容のまとめ

「小1プロブレム解消を目指した教育課程づくり」に関わる研修(全4回)の内容は、①小1プロブレム、子どもの発達の連続性と教育者による支援、②子どもの学びの連続性を保障することーコミュニケーション能力の育成ー、③幼児教育と小学校教育の円滑な接続の在り方、という3つの観点から、次のように要点をまとめることができた。

① 小1プロブレム、子どもの発達の連続性と教育者による支援

小1プロブレムとは、小学校入学直後の児童が、学校生活に適応できないというような、問題行動をいう。幼稚園・保育園と小学校の教育環境の段差と家庭教育の欠落・不足が原因。子どもは、長い時間をかけて適応していけるようになる。子どもの一生涯を見据えた支援が必要。子どもの可能性について理解する眼をもち、それを引き上げて伸ばす。小学校入学当初の子どもへの対応としては、みんなと同じようにしようというところから始めて、なかなか続かなくても、少しずつでもできるようになったことを見

て取って褒めていく。また、子どもを取り巻く地域の再生を続けていくことで、小1プロブレムに限らず、生涯に渡ってずっと豊かな子どもを育てていける環境が出来上がる。

② 子どもの学びの連続性を保障すること -コミュニケーション能力の育成-

負の段差をいかに低くし、滑らかにつないでいくか。1対1での直接的な対話から、みんなに向けての間接的な二次的言葉で学ぶことへの段差はとても大きい。急いで上手に話させるよりも、体験を生活のエピソードとして引き出し、先生はつなぎ役になる。保育園の「お集まりの場」を取り入れた活動が有効。ことばの力が保育園から小学校へどのように連続してつながっていくかが分かりやすいように、「書く」「話す・聞く」「読む」の3領域でカリキュラムを整理した上で、対話の育ちを意識した教師の具体的な関わりを記載した。カリキュラムづくりだけでなく、行動連携や情報連携も充実してきたことで、入学前の不安が楽しみに変わってきた。

③ 幼児教育と小学校教育の円滑な接続の在り方

最新事情として、i) 学びの基礎力の育成というつながりで、教育の連続性・一貫性を捉えること、ii) 今の学びがどのように育ってきたのか・育っていくのかを見通すことで、子どもの学びや発達の連続性を捉えること、iii) 学びの基礎力の育成にかかわる問題として、小1プロブレムを捉えること、iv) 幼小接続を見通したカリキュラムを構成・実践する力、が求められている。熊本県、菊池教育事務所管内、菊池市、合志市、大津町、菊陽町での幼保小連携の具体的な取り組みを参考にしつつ、今後取り組んでいく必要のある具体的な事項を可視化することが、各学校での取り組みや校内研修等の場（OJT = On the Job Training）においても有効であろう。

2. 「教師の対人関係およびコミュニケーションスキル向上」に関わるスキル研修講座

(1) 研修のねらい

理論と実践を結びつけた教員研修カリキュラム（「内容研修」）によって参加者が修得した知識や技術を、校内研修（OJT = On the Job Training）などを通して組織的に充実するため、とくに「対人関係」と「コミュニケーションスキル」の向上を目指す。

(2) 研修の概要（スケジュール）

研修は大きく8つのステップから構成されている（下の図1）。ここでは、それぞれのステップについて、その概要を述べる。

Step 1: 6月7日「オリエンテーション:コミュニケーションの基礎を学ぼう」

はじめに Step 1 から Step 8 までの全体スケジュールを解説し、教師と児童生徒の対人関係に関わる話題について、「ピグマリオン効果」などの情報を提供した。

さらに、「対人関係におけるコミュニケーションの特性」、「ことばの役割」などを、ホームページからの題材を活用しながら解説した。

その上で、対人関係カスキルの向上を目的にした「グループワーク」を導入した。これは、あらかじめ準備した個人メモを使いながら、「自分を知らせる」「他人を知る」、さらに「自分を知る」スキルを身につけることを目的にしている。お互いに情報提供をおこなってから、各人の印象についてカードを交換する。こうした一連の過程を経て、「自分理解」「他者理解」、そして「コミュニケーションのスキルアップ」を図る。

このグループワークで使用する道具を含めて、その詳細については、吉田（2011）を参照されたい。

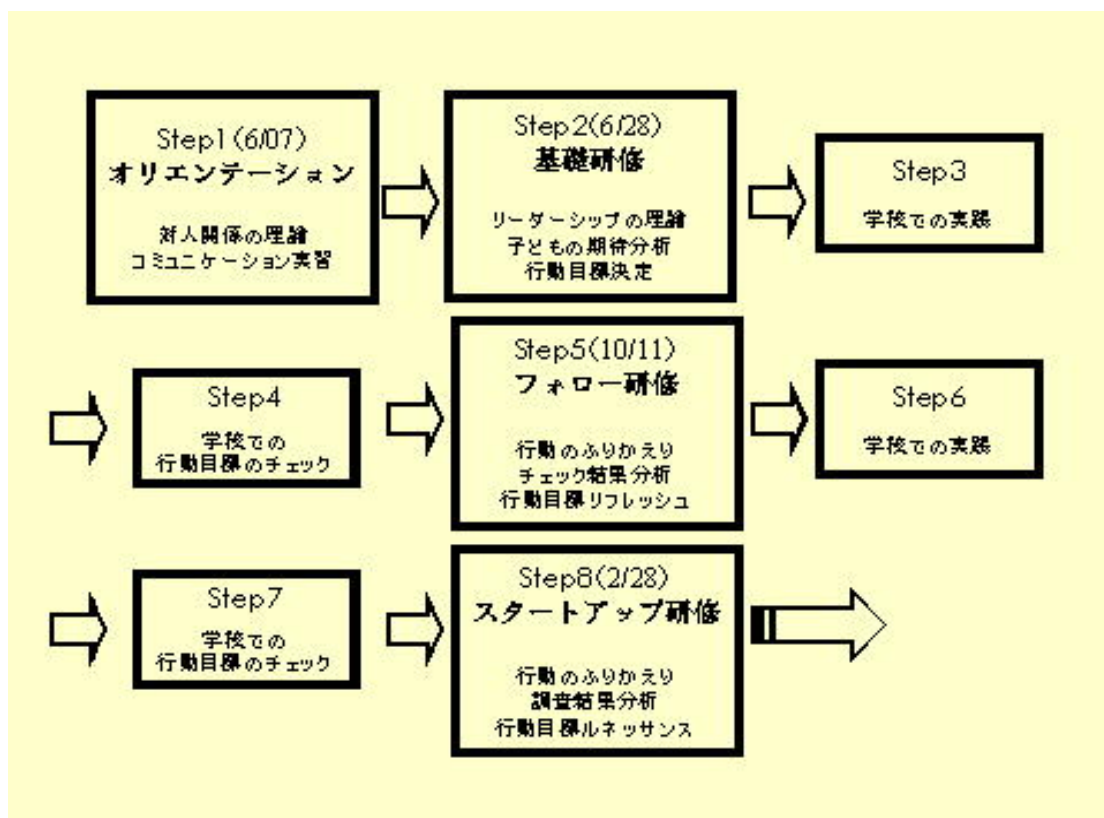


図1 研修のスケジュール

Step 2: 6月28日「基礎研修:私に期待されている行動を探そう」

ここでは、まず「リーダーシップの理論」について情報を提供し、「リーダーシップ」が「特性」ではなく「行動」であり、「コミュニケーションスキル」は改善できることを確認した。その前提に立って、はじめに個々の参加者が「いまの自分に求められている行動」をリストアップした。その際は、「期待する主体」として、「児童生徒」「職場の上司」「同僚教師」、さらには「保護者」などをイメージするよう求めた。

一定の行動項目が挙がったところでグループワークにはいる。そこでは、まず一人ひとりが「自分の項目」をメンバーに提示し、それをリストに挙げた理由を説明する。それに対して、「質問あるいはコメントを出す」ことが奨励される。こうした一連の手続きを踏むことによって、最終的には「これから実行しよう」という3つの「行動目標」を設定する。

なお、この際に「行動目標シート」と名付けたものを用いて、個々人が「実践する決意」を表明する。このシートには、「頑張りサイン欄」が準備されており、そこにお互いのサインを書き込む。一般に、この種の研修では、その中で使われる「道具」が、研修の効果に影響を及ぼすことが多い。

こうして決定された行動目標を学校で実践することになる。実践期間は、次の研修として予定されている「フォロー研修(10月11日)」までとした。そして、後述するように「フォロー研修」直前に、実践行動についてチェックを受けることになる。

Step 3: 「学校での実践」

「基礎研修」で決めた「行動目標」を、それぞれの職場で実践する。

Step 4: 「学校での行動目標チェック」

「フォロー研修」(10月11日)前の1週間あたりを目処に、「行動目標」が実践されたかどうかをチェックする。このチェックは、「行動目標」の実践を評価できるものによる「他者評価」である。したがって、「目標」が児童生徒に対する働きかけであれば、チェック者は児童生徒であり、それが「職員室での行動」であれば、「教員」になる。なお、チェックに当たっては「見えてますかシート」と呼ぶ道具を使用する。そこには、「対人関係やコミュニケーションスキル」が「評価」よりも「見えているかどうか」の視点から考えることが重要だという気持ちを込めている。

Step 5: 10月11日「フォロー研修:児童生徒の声を活かそう」

「フォロー研修」は「基礎研修(6月28日)」から学校で実践した「行動の振り返り」からはじまる。この期間中の自分の行動について「自己評価」する。また、「自分が気をつけたこと、変わったこと」についても分析する。さらに、自分の行動変化が児童生徒や他の教員に及ぼした影響も併せて振り返る。これらを「振り返りシート」に記入してから、グループワークによる情報交換にすすむ。

その後、児童生徒や同僚が回答した、封筒に入れられている「行動目標チェックシート＝見えてますかシート」を開封し、その結果を分析する。ここでは、データ分析のために「データチェックリスト」「データ分析シート」が使われる。基本的には、「自分の行動」に対する「生データ」が得られるために、参加者たちは熱心に分析をすすめる。そして、それをもとにした「情報交換」では、「これはしっかり実践できたので、みんなにも見えたようだ」といった成功事例が出されたり、「ここはうまくいかなかった」といった失敗事例について、自ら反省する場面も見られる。しかし、グループとしては和気藹々とした雰囲気ができあがっており、失敗事例にしても、メンバー同士でアドバイスをし合うといった前向きな姿勢が見られる。これが、「オリエンテーション」から「基礎研修」を経て生まれてきた「集団力」なのだと思う。

こうした一連の分析を経た後で、さらに新しい「行動目標」を、やはり3点セットで設定する。その目標は、参加者たちの実践の度合いによって、「完全に新しい目標」「一部はうまくいかなかったもの」「同じ目標だが、表現を変えるなどしてバージョンアップを図ったもの」など、様々である。タイトルとしては「行動目標のリフレッシュ」とした。

Step 6: 「学校での実践」、Step 7: 「学校での行動目標チェック」

この2つのステップは、「基礎研修」後のものと名目上は同じである。しかし、「フォロー研修」で「生データ」を分析したことから、「行動目標」の質は高まっており、「実践」に向けた意気込みも格段にアップしている。また、その行動をチェックする側である児童生徒や教員の方も、それなりに「目が肥えて」いたのではないかと推測している。

Step 8: 2012年2月28日「スタートアップ研修:新たなチャレンジ」

「スキルアップ研修」の最後は、「スタートアップ研修」と名付けた。そこには、「この研修」は終わりになるが、今後は「自らの力で対人関係とコミュニケーション力、そしてリーダーシップスキル」を向上させて行くための「スタート」に当たるという気持ちが込められている。

さて、「スタートアップ研修」では、「オリエンテーション(6月7日)」からの「全体の振り返り」を中心にグループワークをすすめた。また、ここでも「フォロー研修」において設定した「行動目標」についての「見えてますかシート」のデータチェックと分析を行った。そして、3回目に当たる「目標」を「行動目標のルネッサンス」と命名して、すべてのスケジュールを終えた。

このときも、お互いに「行動目標」の実践を誓い、「頑張れサイン」を交換した。

なお、「スキル研修」については、その内容の性格から対象を小学校教員に限定しなかったため、中学校教員も参加した(添付資料 別紙4-2 参照)。



写真 情報交換の様様

引用文献

吉田道雄 2011 実践的リーダーシップ・トレーニング メヂカルフレンド社。

Ⅲ 連携による研修についての考察

1. 研修カリキュラムの開発に当たっての工夫・留意点

(1) カリキュラムの構造

熊本大学主催教員自主研修カリキュラムでは、①今日的な教育課題の解決に関わる「OJT 推進に関わる対人関係・コミュニケーションスキル」と「小1プロブレム解消を目指した教育課程づくり」という、「スキル研修 (knowing how)」と「内容研修 (knowing what)」を統合した範囲、②1 学期から3 学期までの1 年間を見通した「通時性・連続性」に重点をおいた累積効果と学校への伝播効果をねらう配列・順序という、2つの特色をもつ研修内容とした (別紙 1-1 のとおり)。

なお、内容研修とスキル研修の両方の研修成果の統合については、實際上、最終的には、参加者一人一人の力量に委ねられた。

(2) 大学と教育委員会・学校園の連携

「小1プロブレム解消を目指した教育課程づくり」に関わる内容研修では、大学と教育委員会・学校園の連携の在り方として、①「大学」主導型、②「大学と教育委員会」協働型、③「大学と学校園」協働型+「教育委員会と学校園」協働型、④「大学と教育委員会・学校園」協働型+「学校園」主導型という、4つの連携のタイプを組み合わせた (別紙 1-2 のとおり)。

なお、スキル研修は、①「大学」主導型であった。

(3) 研修担当の講師団

「小1プロブレム解消を目指した教育課程づくり」に関わる内容研修では、研修担当の講師団として、①「巡回講師団 (モバイルチーム)」: 熊本大学と熊本県立教育センターならびに菊池教育事務所が連携して講師団を組織して、菊池教育事務所管内に出向いて、菊池市と合志市の研修開催地を巡回しながら、講師等として研修を担当する、②「地元講師団 (ローカルチーム)」: 菊池市・合志市・大津町の教育委員会を通して、研究推進校と連携幼稚園・保育園から地元の講師団を招聘し、ゲストスピーカーとして菊池市と合志市での実践研修を担当するという、2つの講師団を組み合わせた (別紙 1-3 のとおり)。

なお、スキル研修は、1名の大学教員がすべての研修を担当した。

(4) パイロット・プロジェクト

「OJT 推進に関わる対人関係・コミュニケーションスキル」に関わるスキル研修と「小1プロブレム解消を目指した教育課程づくり」に関わる内容研修を実際に実施するに当たり、①熊本県内の11 地区の中から「菊池」地区に限定し、菊池教育事務所管轄エリアを「パイロット地区」とした、②菊池教育事務所管内の公立小学校 33 校を研修の対象に、「菊池市」「合志市」「大津町」「菊陽町」の4 教育委員会を通して募集案内を各学校に配布した、③「菊池市」「合志市」の2つの市町村教育委員会管轄エリアを「ローカルパイロット地区」とし、その地区にある研究推進拠点校を「ローカルパイロットスクール」として、研修を実施することで、各学校園への浸透、他の地区への拡大・普及を図ったという、3つの階層からなる「パイロット・プロジェクト (限定された地域で試験的に行う計画)」であった (別紙 1-4 のとおり)。

なお、内容研修については、研修終了後2ヶ月以内に、パイロット地区の教育事務所、教育委員会、小学校のすべての機関に、「実施報告書」を郵送・配布することで、研修成果を教育現場に還元するように努めた。

2. 他の教育委員会に参考にしてもらいたいこと

(1) 熊本大学による自己点検・自己評価

① 成果

- ・研修の目標はほぼ達成したと言える（下記③の参加者の評価参照）。
- ・スキル研修、内容研修ともに年間を通して各4回実施できた。出席者は常時20名程度であった。なお、スキル研修の場合、中学校の先生6名も参加した。
- ・講師陣やアドバイザー陣が大変充実していた。
- ・菊池郡市の中央公民館や庁舎を会場として借りることができたのはよかった。
- ・県立教育センターからは、研修準備、講師派遣、プログラム共同企画等協力いただいた。また、菊池教育事務所からも情報提供、講師派遣等協力していただき、前向きな連携ができた。

② 課題

- ・自主・希望研修ということもあり、一人の教員が年8回連続して参加することは、現在の学校状況では困難を要する。また、スキル研修と内容研修の出席者を分けて参加した学校もあった。
- ・大学が連続する研修を主催するよりも、例えば、県立教育センター等主催の研修とし、講師を大学が行うというシステムであれば、教職員研修として妥当ではないだろうか。
- ・学んだ部分をそれぞれの学校で研修するところまではいかなかった。

③ 内容研修の評価（ある日の研修から）

- | | | |
|---|---------|-------|
| i) 研修の内容は、今日的な教育課題に対応したものでしたか。 | 適切だった以上 | 94.7% |
| ii) 研修日程の構成や時間配分は適切でしたか。 | 適切だった以上 | 87.5% |
| iii) 教育事務所管内の学校を対象に、今回のような熊大主催による自主研修があった方がよいですか。 | 少し思う以上 | 88.3% |
| iv) 県教委と熊大が共催で研修を実施した方がよいですか。 | 少し思う以上 | 87.4% |
| v) 自分の実践をふりかえることができましたか。 | 少しできた以上 | 100% |
| vi) 自分のこれからの教育実践に活かせる内容はありましたか。 | 少しあった以上 | 100% |
| vii) 意見や感想 | | |

- ・大学の先生方の専門的な話はとても参考になる。
- ・今、とても悩んでいることに対するヒントをたくさんもらった。
- ・今日のことを、保護者の方々にも伝えたい。

④ スキル研修の評価（研修最終日）

- | | | |
|------------------------------------|------------|-------|
| i) 研修で学んだことはご自分の仕事の役に立ちましたか。 | ある程度役立った以上 | 100% |
| ii) 研修の間に、あなた自身が変わったと思いますか。 | はい | 100% |
| iii) 職場や子どもたち、同僚・保護者たちは変わったと思いますか。 | はい | 66.7% |
| iv) 今回のような研修があれば、参加したいと思いますか。 | 参加してもいい以上 | 89.4% |
| v) 研修全体で、あなたにとって最も影響があったことは何ですか。 | | |

- ・目標を意識することで行動の変容にまで繋がることがわかった。
- ・同じような悩みや課題を抱えていることがわかったが、グループで話し合ううちに、その解決のヒントを得ることができた。
- ・自分の価値観だけでなく人の視点や考え方を受け入れることができるようになった。
- ・対人関係スキルなどは天性のものだと考えていたが、研修に参加して、努力を続ければ改善できることが理解できた。

(2) 熊本県立教育センターとの連携による研修の成果と課題

熊本大学主催教員自主研修講座の講師および運営協力スタッフとしてご協力いただいた連携先の熊本県立教育センター職員2名がまとめた連携による研修の成果と課題は、次のとおりであった。

① 成果

- ・教育センターがもつ研修業務の手法を活かすことができ、研修の準備から運営までスムーズに行うことができた。特に運営においては、研修の司会進行を主に教育センターの所員が行い、講座をする講師を大学が主に行うという役割分担ができた。
- ・大学が専門分野からの内容を、教育センターが国や県の教育の動向や取組についての内容研修を実施することにより、大学の専門的な知識を学校教育における実践の場へつながりをもたせることができた。また、OJTを充実させるために「対人関係およびコミュニケーションスキル向上」に関するスキル研修を含んだことも、実践の場にとって有効であった。
- ・大学と連携して開発した研修カリキュラムのスキル研修や内容研修の内容は、教育センターの研修、例えば「学級経営」「低学年における人間関係づくり」などにおいても、大変参考になるものであり、今後活用していくことができる。

② 課題

- ・日程が教育センターの研修と重なっている回があり、教育センターの所員によっては参加できない期日があった。
- ・条件付き自主研修のため参加者の欠席把握が十分ではなく、協議の際のグループ編成において、事前に十分な準備ができないことがあった。
- ・研修者の事前アンケートをとって課題設定を行うと、より研修の内容が深まるのではないかと。

(3) 教員研修カリキュラムのモデル試案についての考察

上記の「Ⅲ-1. 研修カリキュラムの開発に当たっての工夫・留意点」で提示したような熊本大学主催教員自主研修カリキュラムのモデル試案について、熊本大学と熊本県立教育センターが協議したところ、熊本県立教育センターよりご意見・ご助言をいただいた事項は、次のとおりであった。

- ・条件付き自主研修として、研修参加者を各学校の研究主任あるいは幼保小連携担当に限定することで、各学校での校内研修等（OJT）の機会を通じた拡がり・深まりを期待することができるであろう。
- ・今回のパイロット・プロジェクトは一つの地域モデルとしては有効である。県下全域を対象とする教員研修に適用する際、研修意識の高い教員を対象とした場合は、「課題研修」や「選択希望研修」での長期継続型の研修モデルが適用可能であろう。また、E-learningや放送大学などの遠隔地教育システムを教員研修に活用することで、長期継続型の研修モデルの適用範囲が広がるであろう。
- ・「県版→地域版→学校版」というカスケード・システムに沿った教員研修では、大学と教育委員会・学校園の協働による巡回講師団モデルが適用可能であろう。研究者と実践家と行政が、今日的教育課題の解決に向けた共通の目的意識を共有できることが、協議の前提条件となるであろう。
- ・小1プロブレム解消という今日的教育課題の解決に向けて、学級経営の領域における小学校低学年に限定したリーダーシップ・トレーニングなどのスキル研修を取り入れることも今後必要であろう。また、教師の力量差だけでなく、学校の状況差の影響を考慮に入れた教育課程づくりに関わる実践課題を与えるような内容研修を取り入れることも今後必要であろう。

IV その他

【キーワード】

スクールリーダー, OJT (= On the Job Training), 対人関係・コミュニケーションスキル, 小1プロブレム, 幼保小連携, 幼小接続カリキュラム編成.

【人数規模】

C. 21～50名

(補足事項： 小学校教員 30名程度を定員とした。内容研修では、小学校 33校のうち 22校から自主参加の申込があり、実際に参加した小学校教員数はのべ 68名で、1回の研修の平均参加人数は 17名で、この他に、幼稚園・保育園、保護者、地域の児童委員などの方々がのべ 14名参加した。スキル研修では、22校からの小学校教員に加えて、中学校 12校のうち 6校から自主参加の申込があり、実際に参加した小学校教員数はのべ 50名で、1回の研修の平均参加人数は 13名で、また、実際に参加した中学校教員数はのべ 24名で、1回の研修の平均参加人数は 4名であった。)

【研修日数 (回数)】

C. 4～10日 (4～10回)

(補足事項： 研修回数は、半日 (2時間 30分) の研修を、内容研修とスキル研修でそれぞれ 4回ずつ、合計 8回実施した。研修日数は、内容研修が 3日、スキル研修が 4日で、合計 7日実施した。)

【問い合わせ先】

機関名 国立大学法人 熊本大学 担当者氏名 緒方 建

所属・職名 教育研究推進部 教育学部事務ユニット 総務担当・係長

住所 〒860-8555 熊本市黒髪 2-40-1

担当者連絡先 TEL 096-342-2513 Email kyo-somu@jimu.kumamoto-u.ac.jp

添付資料： 別紙一覧

1. 教員研修カリキュラムのモデル試案
 - 1-1 カリキュラムの構造
 - 1-2 大学と教育委員会・学校園の連携
 - 1-3 研修担当の講師団
 - 1-4 パイロットプロジェクト

2. 研修の実施計画
 - 2-1 研修の全体計画
 - 2-2 内容研修の実施要項
 - 2-3 スキル研修の実施要項

3. 連携先との協議会・打合せの実施状況

4. 参加学校一覧
 - 4-1 内容研修の参加学校一覧
 - 4-2 スキル研修の参加学校一覧

5. 参加者を対象とした事後アンケート
 - 5-1 内容研修の事後アンケート集計結果
 - 5-2 スキル研修の事後アンケート集計結果

熊本大学主催教員自主研修カリキュラムのモデル試案：カリキュラムの構造

- ① 教育課題の解決に関わる「スキル研修」と「内容研修」を統合した研修内容の範囲
- ② 「通時性・連続性」に重点をおいた累積効果と学校への伝播効果をねらう研修内容の配列・順序

内容の構造				内容の範囲（スコープ）	
				教育課題の解決に関わる「スキル研修」 OJT推進に関わる対人関係・コミュニケーションスキル	教育課題の解決に関わる「内容研修」 小1プロブレム解消を目指した教育課程づくり
内容の配列・順序（シーケンス）	1 学期	平日 午後 半日	6月7日 (火) 14:00 16:30	【スキル研修1】 コミュニケーションスキルの基礎 (1) 人間と集団に関する理論 (2) 対人関係およびコミュニケーションスキル向上に求められる理論	
		平日 午後 半日	6月28日 (火) 14:00 16:30	【スキル研修2】 対人関係およびコミュニケーションスキル向上の実践 (1) コミュニケーションスキルの理解と実践 (2) 学校で実践する行動目標の設定	
	夏休み	平日 1日	7月28日 (木) 9:30 12:00		【内容研修1】 小1プロブレム解消のための教育課題の把握 (1) 小1プロブレムとは -子育て支援の立場から- (2) 小1プロブレム解消のための教育課題 -幼児教育の立場から-
		平日 1日	7月28日 (木) 13:00 15:30		【内容研修2】 幼児教育と小学校低学年をつなぐスタートカリキュラム (1) 熊本県の幼保小連携カリキュラムについて (2) スタートカリキュラムづくりに向けた教育実践上の具体的な課題
	2 学期	平日 午後 半日	10月11日 (火) 14:00 16:30	【スキル研修3】 実践行動の振り返りと新たな目標の設定 (1) 3ヶ月間の実践の振り返り (2) 目標設定に求められる条件の理論と分析 (3) 新たな行動目標の設定	
		平日 午後 半日	10月27日 (木) 14:00 16:30		【内容研修3】 合志市での実践研修（一般公開）： 幼保小連携の実際 (1) 幼保小連携の実践校園からの報告 (2) 幼保小連携の実践上の工夫や課題についての協議
	3 学期	平日 午後 半日	2月16日 (木) 14:00 16:30		【内容研修4】 菊池市での実践研修（一般公開）： 新年度に向けた小1プロブレム解消の方策 (1) 各学校での幼保小連携の取り組みの現状報告 (2) 新年度に向けた小1プロブレム解消の方策についての協議
		平日 午後 半日	2月28日 (火) 14:00 16:30	【スキル研修4】 実践行動の振り返りと学校における展開のスキル修得 (1) それまでの実践の振り返り (2) 研修で獲得したスキルを学校全体に伝播していくためのノウハウの検討	

内容研修カリキュラムのモデル試案 (1)
 - 大学と教育委員会・学校園の連携 -

大学と教育委員会・学校園の連携	「小1プロブレム解消を目指した教育課程づくり」に関わる内容研修	研修担当の講師団		
		大学	教育委員会	学校園
「大学」主導型	【内容研修1】菊池市での理論研修： 教育課題の把握 (1) 小1プロブレムとは -子育て支援の立場から- (2) 小1プロブレム解消のための教育課題 -幼児教育の立場から-	(1)(2)担当 2名		
「大学と教育委員会」協働型	【内容研修2】菊池市での理論研修： 幼児教育と小学校低学年をつなぐ スタートカリキュラム～生活科を核として～ (1) 熊本県の幼保小連携カリキュラムについて (2) スタートカリキュラムづくりに向けた教育実践上の具体的な課題 (3) 理論研修のまとめにかえて	(2)(3)担当 1名	(1)担当 1名	
「大学と学校園」協働型+「教育委員会と学校園」協働型	【内容研修3】合志市での実践研修： 幼保小連携の実際 (1) 幼保小連携の実践校園からの報告 (2) 幼保小連携の実践上の工夫や課題についての協議 (3) 実践研修のまとめにかえて	(2)(3)担当 2名	(1)担当 2名	(1)担当 3名
「大学と教育委員会・学校園」協働型+「学校園」主導型	【内容研修4】菊池市での実践研修： 小1プロブレム解消の方策 (1) 各学校での幼保小連携の取り組みの現状報告 (2) 新年度に向けた小1プロブレム解消の方策についての協議 (3) 実践研修のまとめにかえて	(1)(2)担当 2名	(1)(2)担当 2名	(1)(3)担当 4名

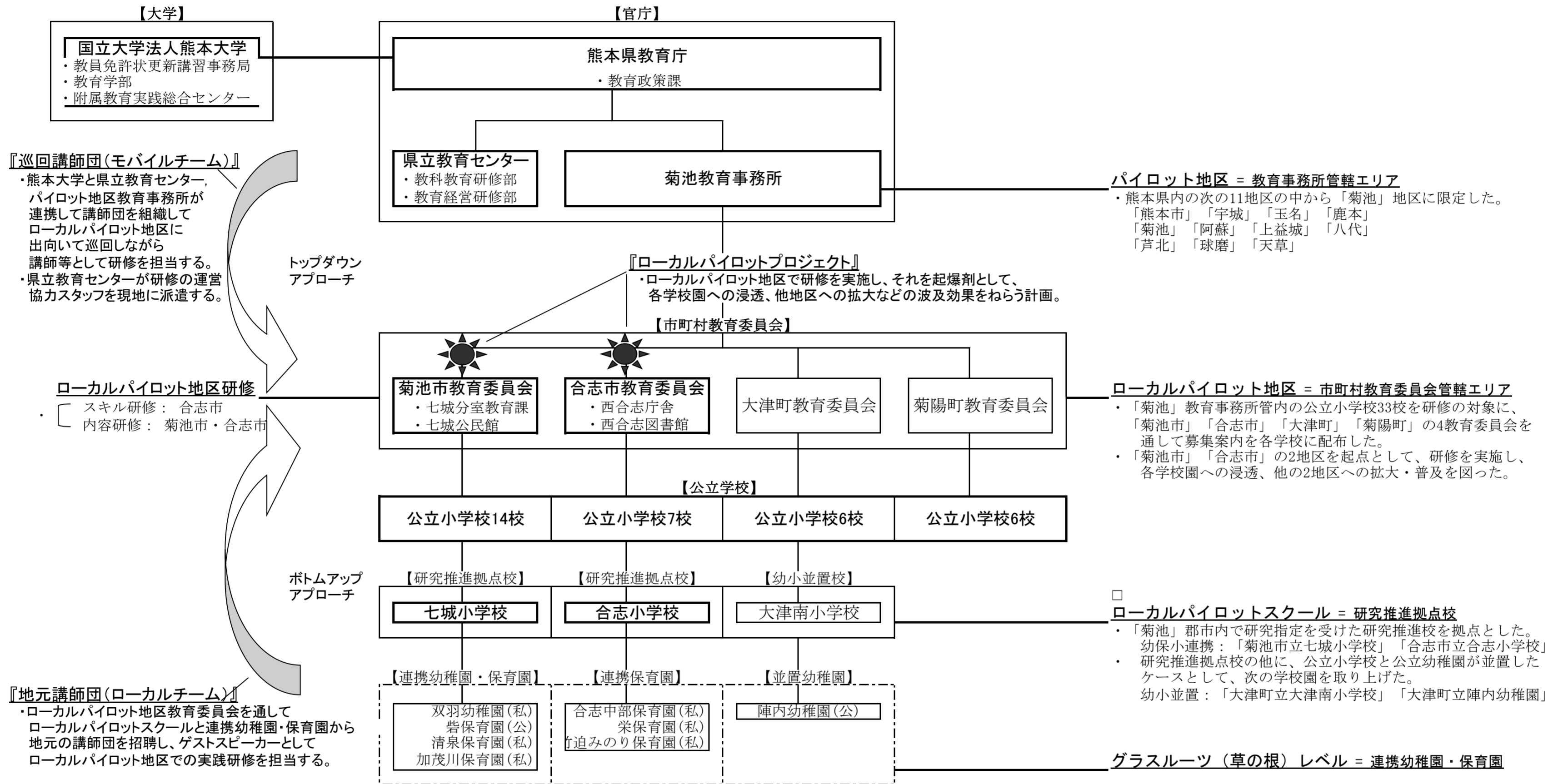
内容研修カリキュラムのモデル試案 (2)
- 研修担当の講師団 -

講師団	担当講師	講師の現職	主な専門分野	担当研修事項	
巡回講師団	大学	高原 朗子	熊本大学教育学部・教授	臨床心理学・障害児心理学	内容研修 1-(1)
		藤田 豊	熊本大学教育学部・教授	発達心理学・幼児教育学	内容研修 1-(2), 3-(2)(3)
		河野 順子	熊本大学教育学部・教授	教科教育学・国語科教育学	内容研修 3-(2)(3)
		中山 玄三	熊本大学教育学部・准教授	教師教育・教育課程・教科教育学	内容研修 2-(2)(3), 4-(2) 企画・総括
		田中 耕治	熊本大学教育学部・特任教授	教員研修・教員免許状更新講習	内容研修 4-(1)
	教育委員会	根本まり子	熊本県立教育センター・指導主事	教員研修・教育経営	内容研修 2-(1), 4-(2)
		白川 悦子	熊本県立教育センター・室長	教員研修・教科教育(家庭)	内容研修 3-(1)
緒方 紀江		菊池教育事務所・指導主事	教員研修・幼保小連携	内容研修 3-(1), 4-(1)	
地元講師団	学校園	森 智保美	合志市立合志小学校・校長	幼保小連携	内容研修 3-(1)
		中林富士子	合志市立合志小学校・教諭	幼保小連携	内容研修 3-(1)
		福嶋 義信	合志中部保育園(私立)・副園長	幼保小連携	内容研修 3-(1)
		亀井 裕子	菊池市立七城小学校・校長	幼保小連携	内容研修 4-(3)
		米村 芳郎	菊池市立七城小学校・教務主任	幼保小連携	内容研修 4-(1)
		伊藤 太子	大津町立大津南小学校・1年生担任	幼保小連携	内容研修 4-(1)
		今村 美子	大津町立陣内幼稚園・園長	幼保小連携	内容研修 4-(1)

註

- 1) 巡回講師団(モバイルチーム) : 熊本大学と県立教育センター、ならびに菊池教育事務所が連携して講師団を組織して、菊池教育事務所管内に出向いて、菊池市と合志市の研修開催地を巡回しながら、講師等として研修を担当する。
また、県立教育センターが研修の運営協力スタッフを現地に派遣する。
- 2) 地元講師団(ローカルチーム) : 菊池市・合志市・大津町の教育委員会を通して、研究推進校と連携幼稚園・保育園から地元の講師団を招聘し、ゲストスピーカーとして菊池市と合志市での実践研修を担当する。

内容研修カリキュラムのモデル試案 (3)
 - パイロットプロジェクト: 限定された地域で試験的に行う計画 -



「小1プロブレム解消のためのOJTを推進するリーダー養成」

1. 研修の背景・趣旨・目的

新学習指導要領の全面実施を控えて、小1プロブレム及び中1ギャップが今日的な教育課題の一つとして挙げられています。小中一貫校の設置に見られるような小中連携とともに、小学校低学年の学力形成に大きな影響が考えられる幼児教育の領域と小学校教育をつなぐ新しい教育課程づくりが、各小学校、幼稚園に求められています。この小1プロブレムの解消を目指した教育課程づくりに資する教員の力量形成とともに学校組織としての課題解決力の向上をめざした研修講座を提供いたします。

また、教職員の多忙感が課題となっている現在、必要な研修を効果的に行うためのOJT(On the Job Training)研修の推進を目指して、参加者が自校の職員全体にその成果とノウハウをスムーズに伝播し、組織機能高めるための対人関係およびコミュニケーションスキル向上のトレーニングをこの研修講座の手段として含んでいます。

2. 研修の内容等

(1) 研修対象と定員

菊池教育事務所管内の小学校教諭30名程度(旅費等の支給はありません)。
なお、内容研修3および内容研修4の実践研修は一般公開する予定ですので、地域の幼稚園・保育園や保護者の方々も自由に参加できます。

(2) 研修日程

日時	会場	内容	目的
6月7日 (火) 14:00 16:30	合志市 西合志図書館	【スキル研修1】 コミュニケーションスキルの基礎 (1) 人間と集団に関する理論 (2) 対人関係およびコミュニケーションスキル向上に求められる理論 講師：吉田道雄(熊本大学教授) 田中耕治(熊本大学特任教授)	研修内容を学校に拡大していくために求められる「コミュニケーションスキル」について、集団的な視点から理解を深める。
6月28日 (火) 14:00 16:30	合志市 西合志庁舎	【スキル研修2】 対人関係およびコミュニケーションスキル向上の実践 (1) コミュニケーションスキルの理解と実践 (2) 学校で実践する行動目標の設定 講師：吉田道雄(熊本大学教授) 田中耕治(熊本大学特任教授)	学校での対人関係を向上させ、コミュニケーションをスムーズにするためのスキルを身に付け、職場で実践する行動目標を設定する。
7月28日 (木) 9:30 12:00	菊池市 七城公民館	【内容研修1】 小1プロブレム解消のための教育課題 (1) 小1プロブレムとは - 子育て支援の立場から- (2) 小1プロブレム解消のための教育課題 - 幼児教育の立場から- 講師：藤田 豊(熊本大学教授) 高原朗子(熊本大学准教授)	小1プロブレムの現状と課題を把握するとともに、小1プロブレム解消のための教育課題について理解を深める。
7月28日 (木) 13:00 15:30	菊池市 七城公民館	【内容研修2】 幼児教育と小学校低学年をつなぐスタートカリキュラム (1) 熊本県の幼小連携カリキュラムについて (2) スタートカリキュラムづくりに向けた教育実践上の具体的な課題 講師：中山玄三(熊本大学准教授) 根本まり子(熊本県立教育センター指導主事)	熊本県の幼小連携カリキュラムについて理解を深めるとともに、幼児教育と小学校低学年をつなぐ新しいスタートカリキュラムづくりに向けた教育実践上の具体的な課題を自覚する。

日時	会場	内容	目的
10月11日 (火) 14:00 16:30	合志市 西合志庁舎	【スキル研修3】 実践行動の振り返りと新たな目標の設定 (1) 3ヶ月間の実践の振り返り (2) 目標設定に求められる条件の理論と分析 (3) 新たな行動目標の設定 講師： 吉田道雄（熊本大学教授） 田中耕治（熊本大学特任教授）	職場での実践を振り返りながら、その課題や問題点をグループワークを通して分析する。さらに実践できる目標設定のあり方について、理論的な情報を提供することで、新たな行動目標を設定する。
10月27日 (木) 14:00 16:30	合志市 西合志庁舎	【内容研修3】 合志市での実践研修（一般公開）： 幼保小連携の実際 (1) 幼保小連携の実践校園からの報告 ・小学校から見た保育園との連携のポイント ・保育園から見た小学校との連携のポイント (2) 幼保小連携の実践上の工夫や課題についての協議 講師： 河野順子（熊本大学教授） 藤田 豊（熊本大学教授） 白川悦子（熊本県立教育センター室長） 緒方紀江（菊池教育事務所指導主事） 森智保美（合志市立合志小学校長） 福嶋義信（合志中部保育園副園長）	幼保小連携の実践校園での取り組みの実例を事例として、「ことばの力」の育成に焦点を当てた実践上の工夫や課題について協議することで、相互に学び合う。また、協議のまとめでは、子どもの発達と学びの連続性の保障という点から、専門的な知見を学ぶ。
2月16日 (木) 14:00 16:30	菊池市 七城公民館	【内容研修4】 菊池市での実践研修（一般公開）： 新年度に向けた小1プロブレム解消の方策 (1) 各学校での幼保小連携の取り組みの現状報告 (2) 新年度に向けた小1プロブレム解消の方策についての協議 講師： 中山玄三（熊本大学准教授） 田中耕治（熊本大学特任教授） 根本まり子（熊本県立教育センター指導主事） 緒方紀江（菊池教育事務所指導主事） 亀井裕子（菊池市立七城小学校長）	研修参加者の各学校での取り組みの現状報告をもとに、新年度に向けた小1プロブレム解消の方策について協議することで、相互に学び合う。その際に、幼保小連携テーマごとに課題と方策を大別して、ステップ・バイ・ステップの具体的な必要・配慮事項を書き出して可視化していく。
2月28日 (火) 14:00 16:30	合志市 西合志庁舎	【スキル研修4】 実践行動の振り返りと学校における展開のスキル修得 (1) それまでの実践の振り返り (2) 研修で獲得したスキルを学校全体に伝播していくためのノウハウの検討 講師： 吉田道雄（熊本大学教授） 田中耕治（熊本大学特任教授）	それまでの実践全体を振り返り、そこで得られたスキルを職場で生かしていくノウハウについて、グループワークを中心に分析・検討する。最終的には、コミュニケーションスキルの向上だけでなく、リーダーシップの改善についても実践的な力を身に付ける。特に、研修参加者たちが学んだことを学校全体に伝播していくための力量の改善を重視する。

「小1プロブレム解消を目指した教育課程づくり」に関わる内容研修講座 実施要項

1 研修のねらい

- (1) 小1プロブレムの解消に取り組む教員の自主研修の機会とする。
 (2) 特に、小1プロブレムの解消に向けた幼保小連携やスタートカリキュラムづくりにかかわる内容について、理論と実践の両面から、理解を深めるとともに、各学校での取り組みや校内研修等（OJT = On the Job Training）に研修成果を生かしていこうとする意識啓発の機会とする。

2 研修の日程

(1) 7月28日（木）の1日研修

小1プロブレムの現状と課題を把握するとともに、小1プロブレム解消のための教育課題について理解を深める。熊本県の幼小連携カリキュラムについて理解を深めるとともに、幼児教育と小学校低学年をつなぐ新しいスタートカリキュラムづくりに向けた教育実践上の具体的な課題を自覚する。

日時・会場		研修内容
7月28日（木） 菊池市 七城公民館	午前	【開講】 9：30 - 9：45 ○「小1プロブレム解消を目指した教育課程づくり」に関わる内容研修の概要説明 熊本大学教育学部特任教授 田中 耕治
		【内容研修1】理論研修： 教育課題の把握 9：45 - 10：45 (1) 「小1プロブレムとは -子育て支援の立場から-」 講師： 熊本大学教育学部教授 高原 朗子
		11：00 - 12：00 (2) 「小1プロブレム解消のための教育課題 -幼児教育の立場から-」 講師： 熊本大学教育学部教授 藤田 豊
	午後	【内容研修2】理論研修： 幼児教育と小学校低学年をつなぐスタートカリキュラム ～生活科を核として～ 13：00 - 14：00 (1) 「熊本県の幼小連携カリキュラムについて」 講師： 熊本県立教育センター指導主事 根本まり子
		14：15 - 15：15 (2) 「スタートカリキュラムづくりに向けた教育実践上の具体的な課題」 講師： 熊本大学教育学部准教授 中山 玄三
		15：15 - 15：30 (3) 理論研修のまとめにかえて ○「幼児教育と小学校教育の円滑な接続の在り方」 講師： 熊本大学教育学部准教授 中山 玄三

(2) 10月27日（木）の午後・半日研修

幼保小連携の実践校園での取り組みの実際を事例として、「ことばの力」の育成に焦点を当てた実践上の工夫や課題について協議することで、相互に学び合う。また、協議のまとめでは、子どもの発達と学びの連続性の保障という点から、専門的な知見を学ぶ。

日時・会場		研修内容
		【内容研修3】合志市での実践研修（一般公開）： 幼保小連携の実際 14：00 - 14：50 (1) 幼保小連携の実践校園からの報告 オーガナイザー： 菊池教育事務所指導主事 緒方 紀江 ① 「ことばの力」を育成する保育・教育の工夫 ゲストスピーカー： 合志中部保育園副園長 福嶋 義信 合志市立合志小学校長 森 智保美 合志市立合志小学校 中林富士子 ② 幼保小連携を推進することによる教育効果

「OJT推進に関わる対人関係・コミュニケーションスキルアップ」研修講座 実施要項

1 研修のねらい

内容研修によって獲得した知識とスキルやノウハウを参加者が所属する学校職員に伝播し、その結果として学校組織の機能強化を図る。その目的を達成するために求められる対人関係およびコミュニケーションスキル向上トレーニングを実施する。

2 研修の日程

(1) 6月7日（火）の午後・半日研修

日時・会場		研修内容	
6月7日(火) 合志市 西合志図書館	午後	14:00 - 14:10	【スキル研修1】コミュニケーションスキルの基礎 開講式
		14:10 - 14:30	(1) 人間と集団に関する理論
		14:30 - 15:00	(2) 対人関係およびコミュニケーションスキル向上に求められる理論
		15:00 - 15:10	休憩
		15:10 - 16:30	グループワーク

(2) 6月28日（火）の午後・半日研修

日時・会場		研修内容	
6月28日(火) 合志市 志庁舎	午後	【スキル研修2】対人関係およびコミュニケーションスキル向上の実践	
		14:00 - 14:30	(1) コミュニケーションスキルの理解と実践
		14:30 - 15:00	(2) 学校で実践する行動目標の設定
		15:00 - 15:10	休憩
		15:10 - 16:30	グループワーク

(3) 10月11日（火）の午後・半日研修

日時・会場		研修内容	
10月11日(火) 合志市 西合志庁舎	午後	【スキル研修3】実践行動の振り返りと新たな目標の設定	
		14:00 - 14:30	(1) 3ヶ月間の実践の振り返り
		14:30 - 15:00	(2) 目標設定に求められる条件の理論と分析
		15:00 - 15:10	休憩
		15:10 - 16:30	(3) 新たな行動目標の設定とグループワーク

(4) 2月28日（火）の午後・半日研修

日時・会場		研修内容	
2月28日(火) 合志市 西合志庁舎	午後	【スキル研修4】対人関係およびコミュニケーションスキル向上の実践	
		14:00 - 14:30	(1) それまでの実践の振り返り
		14:30 - 15:00	(2) 研修で獲得したスキルを学校全体に伝播していくためのノウハウの検討
		15:00 - 15:10	休憩
		15:10 - 16:30	グループワーク

別紙 3

連携先との協議会・打合せの実施状況

時期（平成23年度）		内容・場所
4月（5回）	4日（月）	内容： 「教員研修モデルカリキュラム開発」の全体計画についての 熊本県立教育センターとの協議 場所： 熊本大学教育学部
	6日（水）	内容： 「教員研修モデルカリキュラム開発事業」の概要説明 場所： 熊本県教育委員会・教育政策課
	12日（火）	内容： 教員研修の年間計画・日程・場所等の策定についての 熊本県立教育センターとの協議 場所： 熊本大学教育学部
	19日（火）	内容： 教員研修の日程・場所等についての菊池教育事務所との調整 場所： 菊池教育事務所・市町村教育委員会ほか
	27日（水）	内容： 菊池郡市校長会において募集案内 場所： 菊池教育事務所
7月（1回）	25日（月）	内容： 「内容研修2：菊池市での理論研修」の事前打合せと、 参加者を対象とした事後アンケートの作成についての協議 場所： 熊本県立教育センター
10月（1回）	19日（水）	内容： 「内容研修3；合志市での実践研修」の事前打合せ 場所： 合志市立合志小学校
11月（2回）	14日（月）	内容： 今年度の経過報告と来年度以降の展開についての協議 場所： 熊本県立教育センター
	18日（金）	内容： 熊本県教育委員会と熊本大学教育学部の連絡協議会における 「教員研修モデルカリキュラム開発事業」の経過報告 場所： 熊本県教育委員会
1月（1回）	10日（火）	内容： 「内容研修4：菊池市での実践研修」の事前打合せと、 県立教育センターによる外部評価と総括についての打合せ 場所： 熊本県立教育センター
2月（1回）	6日（月）	内容： 「内容研修4；菊池市での実践研修」の事前打合せ 場所： 菊池市立七城小学校
3月（1回）	26日（月）	内容： 教員研修の最終報告と謝辞 場所： 菊池教育事務所・市町村教育委員会ほか

平成23年度熊本大学主催教員自主研修講座「内容研修」
 熊本県菊池郡市の参加学校園一覧

市・町	学校番号 ■:参加申込校	学校園名	内容研修1 7/28(木)午前 菊池市	内容研修2 7/28(木)午後 菊池市	内容研修3 10/27(木)午後 合志市	内容研修4 2/16(木)午後 菊池市
菊池市	1	隈府小	①	×	①	①
	2	河原小				
	3	水源小				
	4	迫水小	×	×	①	①
	5	龍門小	①	①	①	×
	6	菊池北小				
	7	菊之池小	①	①	①	①
	8	花房小	①	①	①	①
	9	戸崎小				
	10	七城小	②	①	②	③
	11	旭志小	×	×	①	①
	12	泗水東小	×	①	×	×
	13	泗水小	①	①	①	①
	14	泗水西小				
他		双羽幼稚園	-	-	-	②
		加茂川保育園	-	-	-	①
		清泉保育園	-	-	-	②
		児童委員	-	-	-	①
		保護者	-	-	-	①
合志市	15	合志小	①	①	②	①
	16	合志南小	①	①	①	①
	17	南ヶ丘小	①	①	①	×
	18	西合志第一小	①	①	×	×
	19	西合志南小	①	①	①	②
	20	西合志中央小	①	①	×	×
	21	西合志東小	①	①	①	①
	他	合志中部保育 園	-	-	④	-
大津町	22	大津小	×	×	×	×
	23	室小	①	①	×	①
	24	大津南小	①	①	×	①
	25	大津東小				
	26	大津北小				
	27	護川小	①	①	×	①
	他	陣内幼 児園	①	①	-	①
菊陽町	28	菊陽中部小				
	29	菊陽南小				
	30	菊陽北小				
	31	武蔵ヶ丘小				
	32	菊陽西小	①	①	×	①
	33	武蔵ヶ丘北小				
(合計)参加者総数			19	18	19	26

註) 表中の○内の数字は、参加者数(研修開催地区から招聘したゲストスピーカーを含む)を示す。

(集計: 田中耕治・熊本大学教育学部特任教授)

平成23年度熊本大学主催教員自主研修講座「スキル研修」
 熊本県菊池郡市の参加学校一覧

市・町	学校番号 ■:参加申込校	学校園名	スキル研修1 6/7(火)午後 合志市	スキル研修2 6/28(火)午後 合志市	スキル研修3 10/11(火)午後 合志市	スキル研修4 2/28(火)午後 合志市
菊池市	1	隈府小				
	2	河原小				
	3	水源小				
	4	迫水小		①	①	①
	5	龍門小		①		①
	6	菊池北小	①	①		
	7	菊之池小				①
	8	花房小				
	9	戸崎小				
	10	七城小	①			
	11	旭志小	①		①	①
	12	泗水東小				
	13	泗水小	①	①	①	①
	14	泗水西小				
合志市	15	合志小		①	①	①
	16	合志南小	①	①	①	①
	17	南ヶ丘小	②	②		
	18	西合志第一小	①	①	①	①
	19	西合志南小	①	①	①	①
	20	西合志中央小	①	①	①	
	21	西合志東小	①	①	①	①
大津町	22	大津小	①	①		①
	23	室小		①		
	24	大津南小				
	25	大津東小				
	26	大津北小				
	27	護川小				
菊陽町	28	菊陽中部小				
	29	菊陽南小				
	30	菊陽北小				
	31	武蔵ヶ丘小				
	32	菊陽西小	①	①	①	①
	33	武蔵ヶ丘北小				
(合計) 参加小学校教員総数			13	15	10	12

註) 表中の○内の数字は、参加小学校教員数を示す。

(集計: 田中耕治・熊本大学教育学部特任教授)

市・町	学校番号 ■:参加申込校	学校園名	スキル研修1 6/7 (火) 午後 合志市	スキル研修2 6/28 (火) 午後 合志市	スキル研修3 10/11 (火) 午後 合志市	スキル研修4 2/28 (火) 午後 合志市
菊池市	1	菊池北中	①	①	①	①
	2	菊池南中	①	①	①	①
	3	七城中	①	①	①	①
	4	旭志中				
	5	泗水中	①	①	①	①
合志市	6	合志中				
	7	西合志中				
大津町	8	西合志南中				
	9	大津中	①	①	①	①
菊陽町	10	大津北中				
	11	菊陽中	①	①	①	①
	12	武蔵ヶ丘中				
(合計) 参加中学校教員総数			6	6	6	6

註) スキル研修では、中学校教員も対象とした。表中の○内の数字は、参加中学校教員数を示す。

(集計： 田中耕治・熊本大学教育学部特任教授)

平成23年度熊本大学主催教員自主研修講座「内容研修」
参加者を対象とした事後アンケートの集計結果

I 受講環境について

質問項目	選択肢	人数(%)		
		内容研修1・2 7/28(木)午前・午後 菊池市 (N=20)	内容研修3 10/27(木)午後 合志市 (N=17)	内容研修4 2/16(木)午後 菊池市 (N=19)
1 研修会場の広さは適切でしたか。	①広すぎる ②やや広い ③ちょうどいい ④やや狭い ⑤狭い	19 (95.0) 1 (5.0)	17 (100.0)	19 (100.0)
2 受講者の人数は適切でしたか。	①多すぎた ②やや多い ③適切だった ④やや少ない ⑤少なかった	10 (50.0) 10 (50.0)	8 (47.1) 9 (52.9)	11 (57.9) 7 (36.8)

II 研修内容について

質問項目	選択肢	人数(%)			
		内容研修1 7/28(木)午前 菊池市 (N=19)	内容研修2 7/28(木)午後 菊池市 (N=18)	内容研修3 10/27(木)午後 合志市 (N=17)	内容研修4 2/16(木)午後 菊池市 (N=19)
1 研修の内容は、今日的な教育課題に対応した適切なものでしたか。	①非常に適切だった ②適切だった ③あまり適切ではなかった ④まったく適切ではなかった	2 (10.5) 16 (84.2) 1 (5.3)	4 (22.2) 13 (72.2)	7 (41.2) 10 (58.8)	4 (21.1) 15 (78.9)
2 研修の手段(テキスト、資料、板書、プレゼンテーション、ビデオ等)は、わかりやすく有効でしたか。	①大変有効だった ②有効だった ③あまり有効でなかった ④まったく有効でなかった	1 (5.3) 17 (89.4) 1 (5.3)	3 (16.7) 15 (83.3)	4 (23.5) 13 (76.5)	4 (21.1) 15 (78.9)
3 演習、グループワーク、討議など参加体験型の取り組みはありましたか。	①あった ②少しあった ③あまりなかった ④なかった	4 (21.1) 2 (10.5) 6 (31.6) 7 (36.8)	11 (61.1) 7 (38.9)	6 (35.3) 9 (52.9) 2 (11.8)	15 (78.9) 3 (15.8)
4 自分のこれまでの教育実践を新しい視点から振り返ることができましたか。	①できた ②少しできた ③あまりできなかった ④できなかった	10 (52.6) 9 (47.4)	8 (44.4) 10 (55.6)	11 (64.7) 6 (35.3)	8 (42.1) 10 (52.6)
5 学校に帰ってからの自分の教育実践に生かせる内容はありましたか。	①あった ②少しあった ③あまりなかった ④なかった	10 (52.6) 9 (47.4)	11 (61.1) 6 (33.3)	14 (82.4) 3 (17.6)	10 (52.6) 8 (42.1)
6 今回の研修を受講して、自分自身の教育実践に対する考え方が変わりましたか。	①変わった ②少し変わった ③あまり変わらなかった ④変わらなかった	7 (36.8) 8 (42.1) 4 (21.1)	6 (33.3) 10 (55.6) 1 (5.6)	5 (29.4) 12 (70.6)	4 (21.1) 13 (68.4)
7 今回の研修を受講して、自分自身の教育実践を改善しようと思えますか。	①思う ②少し思う ③あまり思わない ④思わない	12 (63.2) 5 (26.3) 2 (10.5)	10 (55.6) 7 (38.9)	11 (64.7) 6 (35.3)	10 (52.6) 8 (42.1)

III その他

質問項目	選択肢	人数(%)		
		内容研修1・2 7/28(木)午前・午後 菊池市 (N=18)	内容研修3 10/27(木)午後 合志市 (N=17)	内容研修4 2/16(木)午後 菊池市 (N=19)
1 全体として、今回の研修はどの程度有意義	①非常に有意義だった ②有意義だった	4 (22.2) 13 (72.2)	7 (41.2) 10 (58.8)	3 (15.8) 15 (78.9)

1	でしたか。	③あまり有意義ではなかった ④まったく有意義ではなかった			
2	全体として、研修日程の構成や時間配分は適切でしたか。	①非常に適切だった ②適切だった ③あまり適切ではなかった ④まったく適切ではなかった	4 (22.2) 14 (77.8)	2 (11.8) 12 (70.6) 2 (11.8)	2 (10.5) 16 (84.2)
3	教育事務所管内の学校を対象に、今回のような熊本大学主催による自主研修の機会が、もっとあった方がよいと思いますか。	①思う ②少し思う ③あまり思わない ④思わない	9 (50.0) 7 (38.9) 1 (5.6)	7 (41.2) 8 (47.1) 2 (11.8)	7 (36.8) 8 (42.1) 1 (5.3)
4	熊本県教育委員会（教育事務所・熊本県立教育センターを含む）と熊本大学が共催で研修を実施した方がよいと思いますか。	①思う ②少し思う ③あまり思わない ④思わない	8 (44.4) 7 (38.9) 1 (5.6)	6 (35.3) 8 (47.1) 1 (5.9) 1 (5.9)	8 (42.1) 7 (36.8)
5	今回の研修を終えてのご意見・ご感想をお聞かせください。	自由記述内容: ○1年担任として、幼児期との連携やカリキュラム等をもっと意識したい。 ○多くの資料を準備してもらいありがたかった。 ○今回学んだことを学校の中で生かしていきたい。 ○考えさせられることがたくさんあって、自分自身のためになった。 ○グループ討議の中でいろんな話が聴けてよかった。 ○大学の先生による研修を受講できて勉強になった。 ○リラックスした楽しい雰囲気の中で講義を聴くことができた。	自由記述内容: ○どの話も大変ためになった。 ○失敗したことを言えるクラス作りが大切であることがわかった。 ○時間の割に内容が多く、勿体ないと感じた。改めて、幼保小の連携が大切だと感じた。 ○今、悩んでいることに対するヒントをたくさんもらった。 ○子どものコミュニケーション力を育てるために今日学んだことを実践したい。 ○藤田先生や	自由記述内容: ○わかりやすい資料をたくさんもらった。 ○他校の実践が聞けてよかった。 ○内容の濃い研修であった。 ○園との連携の大切さがわかった。 ○亀井校長先生に講演をしてほしい。 ○今後の教育実践に生かしたい。 ○一貫したテーマについての継続した研修で情報を得たり、協議することができた。 ○自分自身の子どもに対する	
6	今後に向けて改善すべき点、提案したい点等がございましたら、ご自由に記述願います。	自由記述内容: ○研修にも参加したいが、授業も気になる。休業中の研修はありがたい。 ○幼稚園や保育園に通っていない子がたくさん課題を抱えている。家庭教育の必要性を感じる。 ○中学校におけるカリキュラムも作成してほしい。小1と同様、中1	自由記述内容: ○科学的な視点から1年生の特徴を教えてもらうことはとても勉強になる。 ○大学の先生方の専門的な話はとても参考になる。	(該当なし)	

(集計： 田中耕治・熊本大学教育学部特任教授， 中山玄三・熊本大学教育学部准教授)

脚注： 本アンケートは、熊本大学教員免許状更新講習事務局ならびに熊本県立教育センターのご承諾を得た上で、それぞれの機関が独自で実施し研修参加者を対象とした事後アンケートの質問項目を参考にして、中山玄三(熊本大学教育学部准教授)が作成したものである。

別紙 5-2 「対人関係スキルアップ研修」の評価

研修の最終回（平成 24 年 2 月 28 日）に、参加者たちに対して研修に関する 5 問の質問調査を実施した。回答者は 17 名であったが、はじめて「スキル研修」に参加した者が 2 名おり、後述する最後の質問を除いて回答は得られなかった。

ここでは、各質問項目の結果を提示し、若干の考察を加える。

1. ご参加された研修のすべてに○をつけてください。

1. 6 月 7 日（オリエンテーション） 2. 6 月 28 日（基礎研修）
3. 10 月 11 日（フォロー研修） 4. 2 月 28 日（スタートアップ研修）

スタートのオリエンテーションからすべて参加した者が 10 名で、他の 5 名は 4 回目を除くいずれかの 1 回だけを欠席していた。

研修はあくまで自主的に参加するものであり、毎回 14 時には会場に着いておかねばならなかったことを考慮すれば、この結果そのものが、意欲的に参加しようという気持ちが持続したことの現れだと評価したい。

2. 研修で学んだことは、ご自分の仕事の役に立ちましたか。（ ）内は回答者数とパーセンテージ

1. 非常に役立った（0） 2. かなり役立った（8 53%） 3. ある程度役立った（7 47%）
4. あまり役立たなかった（0） 5. 役立たなかった（0）

最も肯定的な「非常に役立った」と回答した者はいなかったが、否定的な反応もまったくなかった。こうしたことから、4 回にわたる「スキル研修」は一定の評価を受けていると思われる。

また、「ある程度」の回答者の中には、「研修は楽しかったが、自分で決めた行動目標が十分に実践できなかったので 3 にしました」との記述もあった。さらに、「これまで以上に、生徒・保護者・同僚とうまくコミュニケーションをとれるようになった」「同じような方法を子どもたちにも実践してもらった結果、クラスの雰囲気がとてもよくなりました」「自分が少しがんばれば目標は達成できるという喜びがあり、次年度も目標を決めて意欲的に取り組んでいきたい」など、いずれも研修の効果を実感していることがうかがわれる。

3. 研修の間に、あなた自身が変わったと思いますか。

1. はい（15 100%） 2. いいえ（0）

参加者の全員が、「自分が変わった」と回答した。その具体的な内容や程度に違いはあるが、同僚や児童生徒に対する行動が変わったという「自己評価」は、現実の対人関係にもプラスの影響を与えられていると思われる。

自由記述欄には、「子どもが自分に期待しているものは何かを考えるようになった」「研修で自己分析を行ったり、具体的な実践目標を決めることで、いろんな面で「意識する」ことができるようになった」「これまで以上に、対人関係を意識し、自分と価値観や性格がやや違う人とどう接触するのかを考えるようになった」など、自分の変化を認識している内容のものが大半を占めていた。また、「本を読んでわかっただけで実際の行動が伴わないと、スキルアップができないことを実感

した」という声も、研修の効果を評価しているものと考えられる。

4. 職場や子どもたち、同僚・保護者たちは変わったと思いますか。

1. はい (10 66.7%) 2. いいえ (5 33.3%)

自分の身の回りにおける他者の変化まで引き起こすのは至難の業である。しかし回答を見ると、2/3の参加者が「変わった」と答えている。これはあくまで回答者たちの「評価、ではあるが、「自分が変われば、相手も変わる」ことを現実と感じた者がいるのである。

ここでも具体的には、「子どもたちが服装をきちんとして、挨拶も返してくれるようになりました」「楽しい職員室づくり」のために行動したら、職員室の空気が明るくなったように思う」「子ども同士が認め合う場面が増えてきた」「私に対して、「お疲れさまです」「がんばっていますね」というねぎらいのことばが多く返ってくるようになってきた」など、子どもや同僚の変化を指摘した記述が見られる。さらに「保護者とのやりとりがとてもしやすくなった」といった声もある。

5. 研修全体で、あなたにとって最も影響があったことは何ですか。その理由もお書きください。

これについても、具体的な内容が記述されており、今後、こうしたプログラムをバージョンアップするために貴重な情報を得ることができる。ここでは、その主なものを挙げてみよう。「:」以降はその理由である。

- ・目標をはっきりさせて行動することの大事さを体感した：「目標を意識することで行動の変容にまで繋がるのがわかった」
- ・他校の先生方と交流できた：「同じような悩みや課題を抱えていることがわかったが、グループで話し合ううちに、その解決のヒントを得ることができた」
- ・対人関係において「自分が変わろうとすることの大事さ」を考えた：「自分の価値観だけでなく人の視点や考え方を受け入れることができるようになった」
- ・対人関係スキルは改善できることがわかった：「対人関係スキルなどは天性のものだと考えていたが、研修に参加して、努力を続ければ改善できることが理解できた」

6. あなたは、今回のような研修があれば、参加したいと思いますか。

1. ぜひ参加したい (3 17.6%) 2. かなり参加したい (5 29.4%) 3. 参加してもいい (8 47.1%) 4. あまり参加したくない (1 0.6%) 5. 参加したくない (0)

この質問には、最終回の研修だけの参加者の回答も含めた。「あまり参加したくない」という否定的な回答をした者が1名いた。そのほかは、「参加してもいい」とい消極的な反応を含めて、今後、こうした研修に参加することを肯定的に考えている。また、否定的に回答した参加者は次のような理由を挙げている。「研修には楽しく参加できました。ただ、この研修に来るためには、子どもたちを自習にしなければなりません。とにかく子どもたちや先生方とコミュニケーションをとる時間がほしいです」。これを読むと、「参加したくない」のは研修内容の問題ではないことがわかる。そこには、教師が置かれている現場の課題が明らかにされている。研修等を導入する際の環境整備が求められているのである。いずれにしても、今回の研修に限定すれば、所期の目的は十分に達成されたと評価したい。